

令和 2 年 6 月 30 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H01945

研究課題名(和文) 古代「仏都圏」の社会と文化に関する地域史的・比較史的研究

研究課題名(英文) Comparative and regional study on society and culture of the ancient Buddhist capital area

研究代表者

吉川 真司 (Yoshikawa, Shinji)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：00212308

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 29,900,000円

研究成果の概要(和文)：「仏都圏」という新しい概念を提唱し、寺院の社会的・文化的役割を検討することによって、古代日本の首都圏の歴史的特質を明らかにしようとした。「仏都圏」では、都城周辺の山林寺院、権力中枢に連なる寺院、交通に深く関わる寺院などが特徴的な存在である。多数の事例を学際的に検討することによって、「仏都圏」概念の有効性ととも、「仏都圏」を構成する諸地域の多様性が明らかになった。しかし、古代の中国・韓国ではこうした「仏都圏」が認められず、そのことはかえって古代日本の特色をあぶりだす結果となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「仏都圏」という概念を提唱し、古代日本の特色を考えようとする全く新しい試みであったが、学際的な検討がうまく機能し、新概念の有効性・可能性が確認できた。比較史的研究も、国際シンポジウムを含めて成功裡に終わり、日本古代の社会・地域編成の特徴をはっきり捉えることができた。従来の「畿内」論を超えた、斬新な首都圏研究がここからスタートするものと期待できる。また、研究メンバーは「仏都圏」の故地において、それぞれの研究成果を積極的に講演し、市民の方々に自分たちが生きる地域を再認識してもらおう機会を提供した。

研究成果の概要(英文)：Introducing a new concept of “the Buddhist capital area”, we tried to elucidate the historical characteristics of the capital area in ancient Japan by studying the social and cultural roles of Buddhist temples. “The Buddhist capital area” had three types of typical temples; (1)temples located in mountains around the capital, (2)temples linked to the powers, and (3)temples deeply involved in traffic and transportation. Through interdisciplinary research on many cases, “the Buddhist capital area” has been proven along with diversity of consisting areas. However, we could not find the same kind of “the Buddhist capital” in ancient China or Korea, which highlights the uniqueness of ancient Japanese society.

研究分野：日本古代史

キーワード：仏都圏 古代史 地域史 比較史 古代寺院 山林寺院 出土文字史料

1. 研究開始当初の背景

律令体制の形成・確立にともない、飛鳥京(倭京)・藤原京・平城京は、日本(倭)の政治的中枢としての機能を高め、「王都」としての威儀を整えていった。しかし、これらの王都が古代仏教の根拠地、すなわち「仏都」としての機能を備えていたことも忘れてはならない。仏都には官大寺と氏寺が集中し、数千の僧尼が止住し、国家的法会と教学振興の舞台となっていた。

そして、仏都の周囲には仏都の直接の影響圏、もしくはその存立基盤が広がっていた。「仏都」の寺院の僧尼が往還して文化的・社会的影響を与える一方、それら大寺院の所領が叢生し、修行・布教の施設が設けられ、「仏都」の僧尼を供給する基盤にもなっていた。飛鳥・白鳳寺院の集中、行基の社会事業、『日本霊異記』の主要舞台といった諸事象は、まさにこの地域において見出すことができる。このように「仏都」を囲繞する地域は、他の列島諸地域とは大きく異なった性格をもつが、その歴史的特質・変遷を解明しようとする研究はなされてこなかった。

研究代表者吉川は、この地域を意識的・包括的にとらえ、「仏都圏」と概念化することを着想した。そして、「仏都圏」の特質と変遷を理解する上では、地域史と比較史を軸としながら、その社会と文化を学際的にとらえることが必要であると考えに至った。これが本研究開始当初の学術的背景である。

2. 研究の目的

本研究は、国内外で初めて「仏都圏」という概念を提唱し、寺院が果たした社会的・文化的役割の検討を主軸として、古代日本の首都圏の歴史的特質を明らかにしようとするものである。

上記「研究開始当初の背景」で述べたように、日本古代「仏都」の周囲にはその影響圏・存立基盤が広がっており、これを「仏都圏」と概念化することができる。仏都の僧尼が「仏都圏」に赴いて文化的・社会的影響を与えるとともに、「仏都圏」には寺院所領が数多く設けられ、修行・布教のための寺院や道場が密集し、また仏都の僧侶の主要供給基盤となっていた。つまり、社会・文化面において、仏都と「仏都圏」には相互依存関係を認めることができる。本研究では、こうした関係に着目しながら、古代「仏都圏」の歴史的特質を明らかにすることにつとめる。

また、古代「仏都圏」を解明することは、制度としての畿内を実態面からとらえなおすことでもある。「仏都圏」の範囲は、畿内(大和・河内・和泉・摂津・山背)をこえて広がり、准畿内地域と言うべき近江・丹波・播磨・紀伊はもちろん、周縁地域である伊賀・伊勢・尾張・参河・美濃・淡路・讃岐・阿波を含んでいた。つまり、現代の近畿地方を少し拡大したエリアである。これが「仏都」の影響圏であり存立基盤であったが、そのことは「王都」についても言えるのではないかと思われる。つまり、この地域は実態としての「王都圏」であり、畿内制はその中心部だけを制度化したものと目されるのである。大王・天皇の行幸先、大化前代の王族居住地、品部・雑戸や渡来人が置かれた地、そして9世紀以降の院宮王臣家の主要活動地域などは、「仏都圏」とほぼ一致している。「仏都圏」研究により、古代日本の首都圏(すなわち「王都圏」+「仏都圏」)全体の歴史的特質を把握できるであろう。本研究は「仏都圏」からさらに進んで、古代首都圏の歴史的特質の解明をめざそうとするものである。

「仏都圏」論は、研究代表者吉川がこれまでの研究を進めるなかで着想した新しい研究視角であり、本研究ではそれを多角的に展開し、具体化することを目的としている。その際には、菱田哲郎を研究代表者として行ってきた科学研究費共同研究「古代寺院の儀礼・経営に関する分野横断的比較研究」の成果を発展的に受け継ぎ、「仏都圏」の社会・文化の特質をよく示す古代寺

院の検討を主軸にすえる。すなわち、「仏都圏」各地の古代寺院の機能や活動を、それぞれの地域に即して、文献史学・考古学・歴史地理学・美術史学の方法により総合的に考察する。また、関連する文献史料の集成と解析を進め、「仏都圏」の社会・文化を考えるための基礎作業とする。これらは分野横断的な地域史的研究と行うことができるが、それに加えて比較史的研究も進める。すなわち、韓国・中国・ジャワにおいて「仏都圏」と見られる地域の寺院遺跡を調査し、その特質を比較史的に解明する。「仏都圏」は日本古代史のみならず、アジア史研究においても初めて用いられる概念であるため、日本以外でかかる視角がどこまで有効であるかについては、アジア史の専門研究者と深い議論が必要となる。そのなかで、古代の首都(王都・仏都)をめぐる政治・社会・文化の編成の日本の特質を明らかにしていきたい。

3. 研究の方法

(1) 「仏都圏」古代寺院遺跡の総合的検討

発掘調査により重要な知見が得られている「仏都圏」の古代寺院を研究対象として選び、その寺院が立地する小地域(郡・郷レベル)との関係を含めて、包括的な検討を行なう。各年度に10箇寺ほど、総計40箇寺程度を取り上げる。その際には、発掘調査が実施された寺院ごとに、これまでの考古学的所見を総括するとともに、文献史料による知見との突き合わせを行ない、さらに交通路・地割などの歴史地理学的情報や仏像などの美術資料を加えて、分野横断的な考察を進める。このことにより、「仏都圏」各地域の社会と文化の様相・偏差を明らかにし、それらが全体として構成していた「仏都圏」の実像、およびその歴史の変遷を明示する。

(2) 「仏都圏」古代寺院の活動に関する特論的検討

「仏都圏」古代寺院の活動をよく示す事象をいくつか選び、面的な地域史理解を獲得する。具体的には次の3つの事象について、集中的な検討を行なう。

- () 摂津国北部における山林寺院の展開……竜王山と忍頂寺について、文献史学・考古学・美術史学の方法による総合調査を実施し、「仏都圏」中央部にあって、いまだ実態の明らかでない摂津国山林寺院の特質を地域史的観点から明らかにする。
- () 大和国馬見丘陵地域の古代寺院・古代荘園の調査……尼寺廃寺・片岡王寺・西安寺などの古代寺院の創建の背景を再検討するとともに、この地域に成立した古代荘園(弘福寺領広瀬荘)について文献的調査を行ない、「仏都圏」核心部の社会の様相を解明する。
- () 伊勢神郡および隣接地域における古代寺院群の調査……「近長谷寺資財帳」に現われる中小の古代寺院群について、文献史学・考古学・歴史地理学の方法による調査を行ない、伊勢神郡における古代寺院の様相を把握するとともに、隣接地域との比較を行なう。

(3) 「仏都圏」に関する基礎的文献史料の集成と解析

「仏都圏」の社会と文化を考える基礎史料として、この地域の文献史料の情報を集成する。とりわけ、総括の遅れている長岡京域の墨書土器、および「仏都」近隣地域の文字瓦・墨書土器については、これまで以上に突っ込んだ集成・解析作業を進める。また、活字化された文献史料についても、原文書・写本などを再確認しつつ、「仏都圏」という観点から、寺院関係史料を中心に集成・解析を行なう。

(4) アジア各国の「仏都圏」との比較研究

韓国（新羅慶州周辺地域・百濟扶余周辺地域）、中国（洛陽・大同周辺地域）、ジャワ（シャイレーンドラ王朝中枢地域）について現地調査を実施する。日本古代史研究者・アジア史研究者・現地研究協力者が密接に連携し、学史総括・史資料整理を行なった上で現地を訪れ、地域史的観点を堅持しながら遺跡の検討を行なう。そのなかで「仏都圏」という概念の有効性、および日本古代「仏都圏」の特質について議論を深め、共通認識と課題を明らかにする。比較研究の成果については、国際シンポジウムを開催して検証・公開する。

4. 研究成果

(1) 「仏都圏」古代寺院遺跡の総合的検討

4年間の研究期間に18回の古代寺院遺跡検討会を実施した。その内訳は、大和国3回、河内国4回、摂津国4回、山背国2回、伊勢国1回、近江国1回、播磨国2回、讃岐国1回である。畿内地域を中心として、「仏都圏」東部・西部を検討することができた。いずれも「古代寺院史研究会」として開催し、科研メンバーを中心としながら、文献史学・考古学・美術史学・地理学・建築史学の多数の参加を得て、個々の寺院とそれぞれの地域について総合的な議論を行なった。とりわけ意を注いだのが、都城周辺の山林寺院、権力中枢に関連する寺院、交通に密接に関わる寺院などの検討である。は「仏都圏」の形成・維持に深く関わる仏教的施設、は「仏都圏」ならでの存在である。検討を重ねるごとに諸地域の特性と結びつきが明らかとなり、「仏都圏」という研究視角の有効性が確認されるとともに、列島諸地域との対比の必要性が痛感されることとなった。なお、検討会で得られた新知見は、菱田哲郎・吉川真司編『古代寺院史の研究』（思文閣出版）や吉村武彦・吉川真司・川尻秋生編『シリーズ古代史をひらく 古代寺院』（岩波書店）にふんだんに盛り込まれた。また、科研メンバーは「仏都圏」諸地域において積極的に講演活動を行ない、研究成果の社会的還元をはかることに努力した。

(2) 「仏都圏」古代寺院の活動に関する特論的検討

研究計画をたてた3つの特論的検討のうち、最も成果をあげたのは、摂津国忍頂寺の調査・研究であった。寿命院地区・竜王山山頂地区において測量調査と発掘調査を実施するとともに、関連する古代～近世史料の収集・検討を行なうことによって、9世紀代に始まり中・近世に受けつがれた山林寺院の活動を明らかにした。その成果は報告書『竜王山・忍頂寺の研究』にまとめることができた。また、伊勢国神郡および隣接地域の古代寺院群の調査も、発掘調査こそできなかったが、関連する文献や地図類の収集・分析、寺院遺跡の踏査・検討などを行なうことにより、多気郡と壱志郡の対照的な様相を認識することができた。神郡内の寺院建立は9世紀以降に本格的に始まること、壱志郡に7-8世紀の古代寺院が集中するのは神郡の反作用と推定しうることが明らかになった。さらに大和国馬見丘陵地域の検討は組織的には行ない得なかったが、代表者は尼寺廃寺の創建者を初めて糠手姫女王に比定し、「仏都圏」の尼寺ネットワークを考える論点を提示した。また広瀬荘および長屋王家木上司の踏査・検討を進め、後者の所在地を大和高田市大谷・野口に比定し、王都・仏都とその膝下地域の関係を具体化する基礎を固めた。

(3) 「仏都圏」に関する基礎的文献史料の集成と解析

「仏都圏」古代寺院に関する史料の検索・データベース化、長岡京跡出土墨書土器の釈文確定、「仏都圏」中枢地域の墨書土器・文字瓦の集成、の3つの基礎作業を推進した。は10

世紀初頭までの史料のデータベース化を終え、科研メンバーの研究利用に供した。 は 2 年間をかけ、向日市埋蔵文化財センター所蔵墨書土器の全点について再積読を行ない、積文を確定した。この作業の成果は、同センターの報告書『長岡京墨書土器集成』に盛り込まれ、また展示会「埋もれた文字」として市民への公開がはかられた。長岡京期の墨書土器の特質についても基礎的解析を進めた。 は 4 年の全期間をかけ、奈良文化財研究所所蔵の発掘調査報告書の検索・データ集成を行なったものである。奈良県・京都府について入力作業が完了し、その一部を『奈良県出土墨書・刻書土器、文字瓦等集成(稿)』として公開している。これらの作業により、古代「仏都圏」のみならず、「首都圏」の社会・文化を考察する基礎を固めることができた。

(4)アジア各国の「仏都圏」との比較研究

4 回の海外調査を実施した。韓国が 2 回、中国が 1 回、ジャワが 1 回である。これらに加え、研究代表者は ミャンマーの仏都であるパガンとスリ・クシェトラについても補足調査を行なった。韓国では新羅の王都慶州、百済の王都扶余・益山、およびその周辺地域に重点を置きつつ、朝鮮半島南部の古代寺院遺跡を幅広く調査した。特に 2 回目の調査は、国立慶州博物館で同博物館と共催したシンポジウム「金城の南山と平城京の東山 王都周辺の山林寺院の日韓比較」に合わせて実施したものである。2 回の調査によって、日本古代の「仏都圏」的様相は新羅にも百済にも見出しがたいこと、仏都周辺の山林寺院については類似する様相が見られることがわかったが、特に後者については、山林寺院に関する日韓研究者の評価が全く異なることが判明し、かえって今後の研究交流のきっかけをつかむことができた。中国の調査は洛陽・大同周辺の古代寺院遺跡、およびその影響圏とも言える嵩山・五台山を対象にしたものである。古代日本よりはるかに広大な仏教的ネットワークが存在していたことが確認され、ここでも「仏都圏」の概念は適用できそうになかった。さらに ジャワ調査は、インド文化圏にも比較対象を広げたものである(はその補足調査と位置づけている)。ジャワ史の専門家の助言・同行を得て、準備検討会を行なった上で、中国文化圏と大きく異なる社会・仏教の様相を検討した。中部ジャワでは古代王都周辺のみならず、ある程度離れた地域にも拠点的な寺院密集地があり、古代日本の仏都圏・首都圏との比較ができそうであったが、詳細は今後の課題となった。このように、韓国・中国に「仏都圏」的様相が見出せなかったことは成果である。日本古代で何故そうした現象が発生したか、という新たな問題をつかんだことは、今後の研究の原動力となるだろう。なお、いずれの海外調査も、日本史学・東洋史学・考古学・美術史学・地理学のメンバーが参加し、学際的な認識が得られたことを付記しておきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計47件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 菱田哲郎	4. 巻 22
2. 論文標題 地域の開発と後期古墳	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鳥根県古代文化センター研究論集	6. 最初と最後の頁 265-275
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菱田哲郎	4. 巻 1
2. 論文標題 近年の須恵器窯研究と播磨	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 第19回播磨考古学研究集会の記録	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野秋二	4. 巻 13
2. 論文標題 平城京における災異と救済	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都城制研究	6. 最初と最後の頁 13-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野秋二	4. 巻 2017-15
2. 論文標題 墨書土器と文献史料	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告	6. 最初と最後の頁 78-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉江崇	4. 巻 56
2. 論文標題 古記録の翻刻と写本の系統調査	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国史研究室通信	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小澤毅	4. 巻 135
2. 論文標題 自著を語る 『古代宮都と関連遺跡の研究』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊邪馬台国	6. 最初と最後の頁 194-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中俊明	4. 巻 1
2. 論文標題 『日本書紀』の「任那」 加耶の空間的範囲と関連して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 加耶史の空間的範囲	6. 最初と最後の頁 147-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中俊明	4. 巻 1
2. 論文標題 文献史料からみた金官加耶と倭との関係	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 金官加耶服飾と対外交流	6. 最初と最後の頁 17-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上直樹	4. 巻 211
2. 論文標題 百済の王号・侯号・太守号と將軍号 5世紀後半の百済の支配秩序と東アジア	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 113-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井上直樹	4. 巻 25
2. 論文標題 王号・侯号・太守号と將軍号	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 百済学報	6. 最初と最後の頁 291-322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井上直樹	4. 巻 70
2. 論文標題 満洲国と満州史研究 アジア歴史資料センター所蔵文書の分析を中心として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 京都府立大学学術報告(人文篇)	6. 最初と最後の頁 157-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Uejima Susumu	4. 巻 42-1.2
2. 論文標題 Kami and Buddhism in the No Miwa:Rethinking the Study of the Amalgamation of Kami and Buddhas(shinbutsu shugo)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Japanese Religions	6. 最初と最後の頁 25-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉川真司	4. 巻 126-5
2. 論文標題 回顧と展望 日本古代四	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 48-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菱田哲郎	4. 巻 14
2. 論文標題 古墳時代祭祀遺跡から神社へ 大宮売神社境内遺跡の意義	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 京都府立大学文化遺産叢書	6. 最初と最後の頁 180-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菱田哲郎	4. 巻 1
2. 論文標題 日本国山背地域の寺院と韓半島	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 佛智光照	6. 最初と最後の頁 400-437
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野秋二	4. 巻 835
2. 論文標題 書評と紹介 磐下徹著『日本古代の郡司と天皇』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 92-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野秋二	4. 巻 100-6
2. 論文標題 書評 俣野好治著『律令財政と荷札木簡』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 史林	6. 最初と最後の頁 118-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本崇ほか3名	4. 巻 2017
2. 論文標題 藤原宮東方官衙南地区・東南官衙地区の調査 第188-7次	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 奈良文化財研究所紀要	6. 最初と最後の頁 111-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本崇ほか4名	4. 巻 2017
2. 論文標題 藤原宮朝堂院の調査 第189次	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 奈良文化財研究所紀要	6. 最初と最後の頁 84-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本崇ほか4名	4. 巻 2017
2. 論文標題 豊橋市普門寺所蔵僧永意起請の文化財科学的調査	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 奈良文化財研究所紀要	6. 最初と最後の頁 50-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本崇・前岡孝彰	4. 巻 28
2. 論文標題 漆紙文書の追加報告	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 豊岡市立歴史博物館館報	6. 最初と最後の頁 37-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉江崇	4. 巻 53
2. 論文標題 平安貴族の往還と深草地域	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 桃山歴史・地理	6. 最初と最後の頁 35-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉江崇	4. 巻 126-5
2. 論文標題 回顧と展望 日本古代五	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 52-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河上麻由子	4. 巻 15
2. 論文標題 論日本古寫經中の《廣弘明集》 以卷二十二和卷三十為中心	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 域外漢籍研究集刊	6. 最初と最後の頁 253-278
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小澤毅	4. 巻 132
2. 論文標題 小山田古墳の被葬者をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 季刊邪馬台国	6. 最初と最後の頁 131-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中俊明	4. 巻 1
2. 論文標題 韓中日古代寺院史における王興寺の位置	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 百済王興寺と昌王	6. 最初と最後の頁 41-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上直樹	4. 巻 53
2. 論文標題 高句麗史と満鮮史	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東西人文学	6. 最初と最後の頁 467 - 488
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上直樹	4. 巻 17
2. 論文標題 白鳥庫吉の満洲調査 国立公文書館アジア歴史資料所蔵文書の分析を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本中国考古学	6. 最初と最後の頁 49-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上直樹	4. 巻 1
2. 論文標題 朝鮮三国の対倭外交と仏教 仏像の贈与・僧侶の派遣記事の検討を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 佛智光照	6. 最初と最後の頁 438-463
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上直樹	4. 巻 211
2. 論文標題 百済の王号・侯号・太守号と將軍号 5世紀後半の百済の支配秩序と東アジア	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 113-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高正龍	4. 巻 1
2. 論文標題 楊州檜巖寺出土梵字瓦の考古学的研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 佛智光照	6. 最初と最後の頁 1090-1117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤岡穰・犬塚将英・早川泰弘・皿井舞・三田覚之・八坂寿史・関内賛・朴鶴洙	4. 巻 19
2. 論文標題 飛鳥寺本尊銅造釈迦如来坐像 (重要文化財) 調査報告	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 鹿苑雑集	6. 最初と最後の頁 66-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 吉川真司	4. 巻 75
2. 論文標題 難波宮と大化改新	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 明日への文化財	6. 最初と最後の頁 3-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菱田哲郎	4. 巻 13
2. 論文標題 考古学からみた日本古代の仏教伽藍	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 京都府立大学文化遺産叢書	6. 最初と最後の頁 221-242
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野秋二	4. 巻 654
2. 論文標題 日本古代の国制と戦争	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 28-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野秋二	4. 巻 68-2
2. 論文標題 平安京跡左京四条一坊二町出土の木簡	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 129-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本崇	4. 巻 38
2. 論文標題 二〇一五年出土の木簡 奈良・藤原宮跡	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 木簡研究	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河上麻由子	4. 巻 2
2. 論文標題 『弘明集』巻一七について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本古写経研究所紀要	6. 最初と最後の頁 29-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小澤毅	4. 巻 67
2. 論文標題 古代都城と寺院・官衙	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 建築史学	6. 最初と最後の頁 110-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小澤毅	4. 巻 17
2. 論文標題 小山田古墳の被葬者をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 三重大史学	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 網伸也	4. 巻 65
2. 論文標題 初期平安京の山陵と葬地の展開	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 百済研究	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中俊明	4. 巻 12
2. 論文標題 5世紀後半から6世紀前半の朝鮮半島情勢	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 古代武器研究	6. 最初と最後の頁 77-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上直樹	4. 巻 75-1
2. 論文標題 高句麗遺民と新羅	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東洋史研究	6. 最初と最後の頁 98-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高正龍	4. 巻 5
2. 論文標題 故小川敬吉蒐集資料の「朝鮮時代之瓦」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東アジア瓦研究	6. 最初と最後の頁 52-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 犬塚将英・早川泰弘・皿井舞・藤岡穰	4. 巻 56
2. 論文標題 可搬型X線回折分析装置を用いた銅造釈迦如来坐像（飛鳥大仏）の材質調査	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 保存科学	6. 最初と最後の頁 65-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤岡穰	4. 巻 21
2. 論文標題 日本古代の薬師如来造像史からみた芬皇寺薬師如来	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 元暁学研究	6. 最初と最後の頁 103 - 120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤岡穰	4. 巻 89
2. 論文標題 中国南朝造像とその伝播	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 美術資料	6. 最初と最後の頁 216 - 264
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計99件（うち招待講演 61件 / うち国際学会 27件）

1. 発表者名 吉川真司
2. 発表標題 天野川流域の古代
3. 学会等名 古代寺院史研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉川真司
2. 発表標題 土器に文字を書くこと
3. 学会等名 向日市埋蔵文化財センター講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉川真司
2. 発表標題 由義寺と由義宮 仏都としての西京
3. 学会等名 「由義寺跡」国史跡指定記念シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉川真司
2. 発表標題 行基の生馬院と竹林寺
3. 学会等名 行基生誕1350年参画記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉川真司
2. 発表標題 古代王権とウチツクニ
3. 学会等名 京都大学文学研究科シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉川真司
2. 発表標題 奈良時代の東大寺絵図をよみとく
3. 学会等名 世界遺産登録運動20周年記念集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉川真司
2. 発表標題 古代の弓削地域と由義寺・由義宮
3. 学会等名 八尾市制70周年記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菱田哲郎
2. 発表標題 地域開発と後期古墳
3. 学会等名 古代出雲歴史博物館企画展「古代出雲誕生」関連講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菱田哲郎
2. 発表標題 考古学からみた6、7世紀の王権と地域社会
3. 学会等名 日本考古学協会2018年度静岡大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菱田哲郎
2. 発表標題 考古学からみた高句麗と倭 京都府下を中心に
3. 学会等名 平成30年度国際京都学シンポジウム「古代日韓関係史と京都」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菱田哲郎
2. 発表標題 供養碑から墓碑へ 丹後における板碑の調査から
3. 学会等名 第25回京都府埋蔵文化財研究会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菱田哲郎
2. 発表標題 古代寺院が語る飛鳥時代の文明開化
3. 学会等名 長野教育文化振興会講演会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菱田哲郎
2. 発表標題 祈りの器～須恵器に込められた祈り～
3. 学会等名 松山市考古館平成30年度特別展『松山の至宝』講演会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 天平十五年金光明最勝王經転読会と陸奥国 福島県江平遺跡出土木簡再考
3. 学会等名 東北史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉野秋二
2. 発表標題 「上京」と出雲寺・御霊神社 平安京近郊の地域形成
3. 学会等名 日本史研究会2018年4月例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉野秋二
2. 発表標題 愛宕郡の氏族と古代寺院
3. 学会等名 古代寺院史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉野秋二
2. 発表標題 古代・中世讃岐平野の寺院と開発
3. 学会等名 古代寺院史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本崇
2. 発表標題 日本靈異記の中の大安寺 大安寺僧の活動
3. 学会等名 大安寺歴史講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本崇
2. 発表標題 木簡からみた古代兵庫
3. 学会等名 兵庫県生活文化大学考古学講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉江崇
2. 発表標題 中世公家の伝領と吉田地域 勸修寺家本『御遺言条々』を中心に
3. 学会等名 京都大学総合博物館平成30年度企画展関連講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河上麻由子
2. 発表標題 仁壽舍利塔建造活動與日本古寫經
3. 学会等名 台湾中央研究院歷史言語研究所ミニワークショップ「隋唐的王権与仏教」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河上麻由子
2. 発表標題 遣隋使と近代教育
3. 学会等名 東アジア人文教育研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河上麻由子
2. 発表標題 古代東アジアにおける婚姻政策と女性
3. 学会等名 奈良女子大学シンポジウム「世界史のなかのアジア・ジェンダー史」（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河上麻由子
2. 発表標題 日本古代の天下観
3. 学会等名 第13回都城制研究集会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小澤毅
2. 発表標題 小山田古墳の被葬者を考える
3. 学会等名 奈良県立図書情報館「図書館劇場13」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小澤毅
2. 発表標題 都城・官衙研究からみた斎宮解明
3. 学会等名 愛知県陶磁美術館・斎宮歴史博物館連携シンポジウム「斎宮跡と猿投窯」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小澤毅
2. 発表標題 古代の測量技術 方位の測定と都城造営
3. 学会等名 都城制研究会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 網伸也
2. 発表標題 難波百濟寺の造営と百濟王氏 百濟郡建郡の前提を探る
3. 学会等名 第6回高麗郡建郡歴史シンポジウム「古代百濟郡の成立と高麗郡」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中俊明
2. 発表標題 『日本書紀』の「任那」 加耶の空間的範囲と関連して
3. 学会等名 加耶史復元のための国際学術大会「加耶史の空間的範囲」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中俊明
2. 発表標題 文献史料からみた金官加耶と倭との関係
3. 学会等名 加耶服飾復元事業研究用役第1次国際学術セミナー「金官加耶服飾と対外交流」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上直樹
2. 発表標題 『梁職貢図』百済国使題記
3. 学会等名 馬韓研究院(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上直樹
2. 発表標題 文献史料からみた高句麗と倭の関係 6世紀後半の京都での高句麗と倭の通交
3. 学会等名 平成30年度国際京都学シンポジウム「古代日韓関係史と京都」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上直樹
2. 発表標題 新羅下代・景文王の宗廟祭祀と崇福寺
3. 学会等名 九州史学会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上直樹
2. 発表標題 豊臣秀吉の朝鮮出兵と倭城 朝鮮半島で「城」を作る西国大名寺
3. 学会等名 宇治市民大学（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上直樹
2. 発表標題 百済の王号・侯号・太守号と將軍号 5世紀後半の百済の支配秩序と東アジア
3. 学会等名 日韓古代文化研究会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上直樹
2. 発表標題 古代日朝関係と山城 6世紀高句麗使節の来倭
3. 学会等名 宇治市民大学（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高正龍
2. 発表標題 大洲城下採集滴水瓦と密陽嶺南楼所用滴水瓦
3. 学会等名 城郭談話会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高正龍
2. 発表標題 豊臣秀吉の朝鮮侵略と瓦の伝播 滴水瓦と和瓦
3. 学会等名 立命館史学会2018年大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 向井佑介
2. 発表標題 胡漢の文化交流と交易
3. 学会等名 社会変化とユーラシア東西交易 考古学と分析科学からのアプローチ (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤岡穰
2. 発表標題 日本における三国時代金銅仏の新発見
3. 学会等名 The Academia Koreana International Conference , Reconsidering Korean Art: Identity and Aesthetics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤岡穰
2. 発表標題 金銅のみほとけ
3. 学会等名 第47回奈良国立博物館夏季講座「素材から探る仏像のひみつ」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上島享
2. 発表標題 密教修法の構成・特質と中世社会 孔雀経法を通して
3. 学会等名 International Symposium:Medieval Japanese Buddhist Practices and Their Visual Art Expressions (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉川真司
2. 発表標題 国風文化論の現在
3. 学会等名 東方学会関西支部会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉川真司
2. 発表標題 国風文化研究の展望
3. 学会等名 プリンストン大学EAS国際会議 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉川真司
2. 発表標題 日本古代寺院の音楽
3. 学会等名 コロンビア大学東アジア言語学部講演会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉川真司
2. 発表標題 The origin of Japan as a land of gold
3. 学会等名 プリンストン大学EASコロキウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉川真司
2. 発表標題 百済王氏と河内国交野郡
3. 学会等名 枚方歴史フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菱田哲郎
2. 発表標題 律令国家の中の丹後国
3. 学会等名 第135回埋蔵文化財セミナー（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菱田哲郎
2. 発表標題 由義寺と仏の都 塔跡の発見から見えてくる古代国家
3. 学会等名 八尾市山本図書館講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菱田哲郎
2. 発表標題 古代近江の役所と寺院、そして交通路
3. 学会等名 平成29年度りゅうおう歴史文化講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菱田哲郎
2. 発表標題 近年の須恵器窯研究と播磨
3. 学会等名 第19回播磨考古学研究集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 陸奥国分寺・国分尼寺の成立と展開 文献資料と考古学資料
3. 学会等名 仙台市富沢遺跡保存館講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉野秋二
2. 発表標題 平城京における災異と救済
3. 学会等名 第12回都城制研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本崇
2. 発表標題 山田道の発掘調査と出土木簡
3. 学会等名 木簡学会第39回研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本崇
2. 発表標題 大安寺と『日本靈異記』 史料としての『靈異記』
3. 学会等名 大安寺歴史講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本崇
2. 発表標題 『日本靈異記』の中の大安寺 - 大安寺の信仰
3. 学会等名 大安寺歴史講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉江崇
2. 発表標題 由義宮・由義寺・西京に関する予察的考察
3. 学会等名 古代寺院史研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉江崇
2. 発表標題 道鏡の権威・権力と由義宮の造営
3. 学会等名 八尾市志紀図書館読書週間講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小澤毅
2. 発表標題 飛鳥の巨大古墳の被葬者
3. 学会等名 日本史研究会古代史部会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小澤毅
2. 発表標題 五条野丸山古墳は誰の墓か
3. 学会等名 賀茂真淵記念館歴史文化講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小澤毅
2. 発表標題 藤原京はどのような都だったのか
3. 学会等名 NHK文化センター名古屋 ヤマト王権・古代史講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小澤毅
2. 発表標題 聖なるラインは存在したか
3. 学会等名 賀茂真淵記念館歴史文化講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小澤毅
2. 発表標題 飛鳥寺建立と豊浦宮
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター中之島古代史講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小澤毅
2. 発表標題 飛鳥・藤原京に表れた国家形成
3. 学会等名 栄中日文化センター古代史講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小澤毅
2. 発表標題 飛鳥の巨大古墳の被葬者を考える
3. 学会等名 J R 東海奈良学文化講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 網伸也
2. 発表標題 古代瓦からみる四天王寺と周辺寺院・都城
3. 学会等名 四天王寺仏教文化講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中俊明
2. 発表標題 『日本書紀』を通して見た安羅と倭との関係
3. 学会等名 第9回阿羅加耶學術會議（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井上直樹
2. 発表標題 高句麗史と満鮮史
3. 学会等名 大韓民国啓明大学校人文科学研究（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井上直樹
2. 発表標題 戦前日本の満州史研究 国立公文書館アジア歴史資料センター所蔵文書の分析を中心に
3. 学会等名 2017年白頭山國際學術會議（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井上直樹
2. 発表標題 平安京での海外使節のおもてなし 古代日本・渤海関係と鴻臚館
3. 学会等名 2017年度桜楓講座・春の部（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高正龍
2. 発表標題 日韓古代寺院の伽藍配置
3. 学会等名 アスニーセミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 向井佑介
2. 発表標題 中国秦漢から隋唐時代の瓦窯構造とその影響
3. 学会等名 窯跡研究会第15回研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 向井佑介
2. 発表標題 中国魏晋南北朝都城の考古学 宮殿・陵墓・寺院
3. 学会等名 第30回濱田青陵賞記念シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上杉和央
2. 発表標題 地図の歴史と舞鶴
3. 学会等名 『舞鶴の絵地図』刊行記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上杉和央
2. 発表標題 地図の楽しみ方
3. 学会等名 国際ワークショップ「古地図ポータルサイト」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤岡穰
2. 発表標題 蔵王権現の信仰と造像
3. 学会等名 International Conference, Repositioning Shugend?: New Research Direction on Japanese Mountain Religions（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉川真司
2. 発表標題 大和高原の杣と古代山林寺院
3. 学会等名 古代寺院史研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉川真司
2. 発表標題 忍頂寺と北摂の山林寺院
3. 学会等名 古代寺院史研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菱田哲郎
2. 発表標題 宇治市域の遺跡と南山城の古代寺院
3. 学会等名 古代寺院史研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 「皇位天授の思想」と法王道鏡
3. 学会等名 仙台古代史懇話会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 「王権」研究と天皇の歴史的展開
3. 学会等名 忠南大学外国専門家招聘講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉野秋二
2. 発表標題 日本古代の国制と戦争
3. 学会等名 日本史研究会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉野秋二
2. 発表標題 平安前期の貴族邸宅と庭園
3. 学会等名 京都産業大学日本文化研究所2016年度2月例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 星野安治・米延仁志・浦蓉子・山本崇
2. 発表標題 高解像多焦点画像連続撮影システムを用いた文化財のイメージング
3. 学会等名 保存科学研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河上麻由子
2. 発表標題 仁寿舍利塔建立事業与広弘明集
3. 学会等名 中國中古史前沿論壇 中古新政治史研究（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 河上麻由子
2. 発表標題 論日本古写經中広弘明集
3. 学会等名 仏教文献与文学国際学術研討会会議 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 河上麻由子
2. 発表標題 東アジア史と「天下」
3. 学会等名 九州史学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小澤毅
2. 発表標題 Comparison of Initial Capitals in Ancient Japan and China
3. 学会等名 WAC-8 KYOTO (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小澤毅
2. 発表標題 古代都城と寺院・官衙
3. 学会等名 建築史学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 網伸也
2. 発表標題 都城の展開と葬地・墓葬
3. 学会等名 百済研究所国際学術会議（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 田中俊明
2. 発表標題 加耶の戦争
3. 学会等名 加耶史国際学術会議（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 田中俊明
2. 発表標題 高句麗王陵比定に対するいくつかの問題
3. 学会等名 百済研究所国際学術会議（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 井上直樹
2. 発表標題 東洋史学者の満洲踏査
3. 学会等名 日本中国考古学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 向井佑介
2. 発表標題 写真資料にみる日中戦争期の史跡調査
3. 学会等名 日本中国考古学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤岡穰
2. 発表標題 河北白玉像と曹仲達様
3. 学会等名 仏光山仏陀記念館シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤岡穰
2. 発表標題 山の神、蔵王権現の信仰とイメージ
3. 学会等名 大阪大学文学研究科・フランス国立東洋言語文化大学 国際共同シンポジウム「モノと文献でわかる古代・わからない古代」（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤岡穰
2. 発表標題 日本古代の薬師如来造像史からみた芬皇寺薬師如来
3. 学会等名 国際シンポジウム「芬皇寺」（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤岡穰
2. 発表標題 龍王山周辺の仏・神像について
3. 学会等名 古代寺院史研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤岡穰
2. 発表標題 Early Tang Image Production at Chang'an
3. 学会等名 The Association for Asian Studies Conference in Asia (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計37件

1. 著者名 広瀬和雄・山中章・吉川真司・上杉和央・西本昌弘・今津勝紀・大隅清陽・告井幸男・虎尾達哉・森公章・大津透・小原嘉記・古関正浩・青木敬・吉田歎・田中俊明	4. 発行年 2018年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 302
3. 書名 講座畿内の古代学1 畿内制	

1. 著者名 広瀬和雄・山中章・吉川真司・若林邦彦・福永伸哉・坂靖・岸本直文・太田宏明・今尾文昭・若井敏明・一瀬和夫・藤田和尊・北康宏・岸本道昭・細川修平・若狭徹・宇垣匡雅・丹羽野裕・重藤輝行	4. 発行年 2018年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 372
3. 書名 講座畿内の古代学2 古墳時代の畿内	

1. 著者名 菱田哲郎・岡島陽子・岡田大雄・岩本亮祐・田口裕貴・鈴木康大・稲本悠一・新尺雅弘・陰地祐輝・川崎雄一郎・上井佐妃・近藤史昭・吉川真司	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都府立大学文学部考古学研究室	5. 総ページ数 50
3. 書名 竜王山・忍頂寺の調査 竜王山プロジェクト報告	

1. 著者名 吉川真司・石井公成・中西俊英・蓑輪顕量・大谷由香・野呂靖・山岸公基・長岡龍作・児島大輔・山口隆介・海野聡・山岸常人・富島義幸・堀裕・栄原永遠男・佐藤信・永村眞・遠藤基郎・横内裕人・宇都宮啓吾	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 640
3. 書名 東大寺の新研究3 東大寺の思想と文化	

1. 著者名 遠藤みどり・熊谷公男・堀裕・鈴木琢郎・樋口知志・徳竹亜紀子・吉野武・相澤秀太郎・永田英明・鈴木拓也・中野渡俊治	4. 発行年 2019年
2. 出版社 高志書院	5. 総ページ数 340
3. 書名 古代東北の地域像と城柵	

1. 著者名 八重樫直比古・北條勝貴・原口耕一郎・奥田俊博・山本崇・工藤浩・朴美賢・李銘敬・松本直樹・池田昌広・河野貴美子・渡邊卓・瀬間正之・笹川尚紀・葛西太一・藤原享和・谷口雅博・馬駿・高松寿夫・魯成煥	4. 発行年 2018年
2. 出版社 竹林舎	5. 総ページ数 544
3. 書名 古代文学と隣接諸学10 「記紀」の可能性	

1. 著者名 奈良文化財研究所編（責任編集・山本崇）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 奈良文化財研究所	5. 総ページ数 164
3. 書名 藤原宮木簡4	

1. 著者名 河上 麻由子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 296
3. 書名 古代日中関係史	

1. 著者名 肥田路美・藤岡穰・于春・大島幸代・下野玲子・八木春生・Michelle C. Wang・長岡龍作・田中健一・久野美樹・倉本尚徳・顔娟英・大西磨希子・冉万里・濱田瑞美・稲本泰生・沙武田・加島勝・三田覚之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 626
3. 書名 アジア仏教美術論集 東アジア 隋・唐	

1. 著者名 吉川真司・倉本一宏・宇野隆夫・下垣仁志・門井直哉・林部均・西本昌弘・今津勝紀・大津透・武井紀子・細井浩志・井上亘・畑中彩子・荒木浩・横内裕人・徳永誓子・劉曉峰・井上直樹・河上麻由子・榎本渉・武田和哉	4. 発行年 2017年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 608
3. 書名 日本的時空観の形成	

1. 著者名 吉川真司	4. 発行年 2018年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 368
3. 書名 天皇の歴史2 聖武天皇と仏都平城京	

1. 著者名 狭川普文・栄原永遠男・森本公誠・吉川真司・王勇・ブライアンロウ	4. 発行年 2017年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 128
3. 書名 古代東大寺の世界	

1. 著者名 村井章介・稲本泰生・増記隆介・柳幹康・堀裕・上川通夫	4. 発行年 2017年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 136
3. 書名 日宋交流期の東大寺	

1. 著者名 犬飼隆・三上喜孝・中川ゆかり・井上幸・吉田一彦・多田伊織・尾山慎・山口英男・山本崇・岩下武彦・方国花・杉本一樹・桑原祐子・武井紀子・毛利正守・瀬間正之・畑中彩子・鈴木喬・鈴木景二	4. 発行年 2017年
2. 出版社 竹林舎	5. 総ページ数 560
3. 書名 古代の文字文化（古代文学と隣接諸学4）	

1. 著者名 本郷真紹・駒井匠・浅野咲・藤田琢司・毛利憲一・山本崇・吉岡直人	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 528
3. 書名 考証日本靈異記 中	

1. 著者名 松村恵司・若杉智宏・山本崇・大澤正吾・馬場基・諫早直人	4. 発行年 2017年
2. 出版社 クバプロ	5. 総ページ数 194
3. 書名 飛鳥・藤原京を読み解く 古代国家誕生の軌跡	

1. 著者名 吉江崇	4. 発行年 2018年
2. 出版社 塙書房	5. 総ページ数 388
3. 書名 日本古代宮廷社会の儀礼と天皇	

1. 著者名 小澤毅	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 336
3. 書名 古代宮都と関連遺跡の研究	

1. 著者名 網伸也・谷崎仁美・矢野昌史・緒方侑美・一本崇之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 四天王寺勸学部	5. 総ページ数 42
3. 書名 地より湧出した難波の大伽藍 四天王寺の考古学	

1. 著者名 藤岡穰・関内賛・権江美・朴鶴洙・山口隆介・三田覚之・鏡山智子・孫枝銀	4. 発行年 2017年
2. 出版社 韓国国立中央博物館	5. 総ページ数 567
3. 書名 日韓金銅半跏思惟像 科学的調査に基づく研究報告	

1. 著者名 山岸常人・中川委紀子・平雅行・永村眞・村田弘・廣田浩治・上島享・伊東史朗	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 260
3. 書名 歴史のなかの根来寺	

1. 著者名 吉川真司	4. 発行年 2017年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 735(231-262)
3. 書名 『東大寺の新研究2 歴史のなかの東大寺』（「平城京南郊の古代荘園」）	

1. 著者名 吉川真司	4. 発行年 2016年
2. 出版社 塙書房	5. 総ページ数 352(199-229)
3. 書名 『万葉集研究』36(「法会と歌木簡」)	

1. 著者名 菱田哲郎	4. 発行年 2016年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 224(121-130)
3. 書名 『京都を学ぶ【洛北編】』(「植物園北遺跡から見た上賀茂の古代」)	

1. 著者名 菱田哲郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 332(222-233, 268-274)
3. 書名 『「天橋立学」への招待』(「天橋立と宗教遺産群」)	

1. 著者名 堀裕	4. 発行年 2017年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 414(172-175, 176-177)
3. 書名 『仏教史入門ハンドブック』(「宗の成立と展開」「大寺・定額寺から御願時へ」)	

1. 著者名 山本崇・小澤毅・吉川真司ほか	4. 発行年 2016年
2. 出版社 朝日新聞出版	5. 総ページ数 244
3. 書名 『飛鳥むかしむかし 飛鳥誕生編』	

1. 著者名 吉江崇	4. 発行年 2017年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 735(289-310)
3. 書名 『東大寺の新研究2 歴史のなかの東大寺』（「造東大寺司の停廃」）	

1. 著者名 河上麻由子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 334(13-38)
3. 書名 『日本古代の交通・交流・情報2』（「外国への使節たち」）	

1. 著者名 河上麻由子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 288(209-218)
3. 書名 『日本古代の地域と交通』（「東アジアの一切経」）	

1. 著者名 田中俊明	4. 発行年 2016年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 388(271-275)
3. 書名 『日本古代の交通・交流・情報3』（「復元された月精橋」）	

1. 著者名 田中俊明	4. 発行年 2016年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 647(233-251)
3. 書名 『塚口義信博士古稀記念日本古代学論叢』（「天平八年の遣新羅使をめぐる問題」）	

1. 著者名 高正龍	4. 発行年 2016年
2. 出版社 蔚山博物館	5. 総ページ数 630(445-467)
3. 書名 『蔚山靈鷲寺址発掘調査報告書』（「日帝強占期蔚山地方寺院址の踏査と瓦」）	

1. 著者名 向井佑介	4. 発行年 2016年
2. 出版社 科学出版社	5. 総ページ数 342(1-19)
3. 書名 『雲岡石窟 第19巻本文冊』（「雲岡石窟の仏塔意匠」）	

1. 著者名 向井佑介	4. 発行年 2016年
2. 出版社 国書刊行会	5. 総ページ数 780(153-171)
3. 書名 『京都大学人文科学研究所蔵 華北交通写真資料集成 論考編』（「華北交通写真にみる日中戦争期の史跡調査」）	

1. 著者名 上杉和央	4. 発行年 2017年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 332(15-30, 131-151)
3. 書名 『「天橋立学」への招待』（「史料にみえる天橋立の宮津」「神話、文学の中の天橋立」）	

1. 著者名 藤岡穰	4. 発行年 2016年
2. 出版社 高志書院	5. 総ページ数 371(321-352)
3. 書名 『日本の古代山寺』（「蔵王権現をめぐる諸問題」）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	菱田 哲郎 (Hishida Tetsuo) (20183577)	京都府立大学・文学部・教授 (24302)	
研究分担者	堀 裕 (Hori Yutaka) (50310769)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉野 秋二 (Yoshino Shuji) (50403324)	京都産業大学・文化学部・教授 (34304)	
研究分担者	山本 崇 (Yamamoto Takashi) (00359449)	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・主任研究員 (84604)	
研究分担者	吉江 崇 (Yoshie Takashi) (50362570)	京都大学・人間・環境学研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	河上 麻由子 (Kawakami Mayuko) (50647873)	奈良女子大学・人文科学系・准教授 (14602)	
研究分担者	小澤 毅 (Ozawa Tsuyoshi) (00214130)	三重大学・人文学部・教授 (14101)	
研究分担者	網 伸也 (Ami Nobuya) (60708048)	近畿大学・文芸学部・教授 (34419)	
研究分担者	田中 俊明 (Tanaka Toshiaki) (50183067)	公益財団法人古代学協会・その他部局等・客員研究員 (74306)	
研究分担者	井上 直樹 (Inoue Naoki) (80381929)	京都府立大学・文学部・准教授 (24302)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高 正龍 (Ko Jungyong) (40330005)	立命館大学・文学部・教授 (34315)	
研究分担者	向井 佑介 (Mukai Yusuke) (50452298)	京都大学・人文科学研究所・准教授 (14301)	
研究分担者	上杉 和央 (Uesugi Kazuhiro) (70379030)	京都府立大学・文学部・准教授 (24302)	
研究分担者	藤岡 穰 (Fujioka Yutaka) (70314341)	大阪大学・文学研究科・教授 (14401)	
研究分担者	上島 享 (Uejima Susumu) (60285244)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	本庄 総子 (Honjo Fusako) (40823696)	京都府立大学・文学部・講師 (24302)	